

<605> 「A～Dの技術」に固有な「安全」のコツとは？

安全については、技術分野全般に共通する安全以外に、「内容A～Dの技術」それぞれに固有の「安全」のコツを認識しておく必要があります。「内容A～Dの技術」に固有な安全のコツの例を資料に紹介してみます。

コツの例から、「安全」のコツを掴んでみては、いかがでしょうか。また、参考資料として、「内容A～Dの技術」に固有な安全と技術全般に関わる安全との関係を示してありますので、時間に余裕があればご覧になって下さい。

資料：「内容A～Dの技術」の固有な安全のコツの例

A 材料と加工の技術	材料を加工する工具や工作機械の技術は、人間の労力を軽減し、効率や精度を高める便利さの反面、安全への影響について触れるようにする。時間が許せば、建造物の安全を守る丈夫な三角形の構造についても「安全」の視点から触れるようにする。
B 生物育成の技術	農薬などの扱い方や、便利さの反面、目に見えない害を扱う。また、家庭分野と関連して衣食住の安全についても機会を捉えて触れるようにする。
C エネルギー変換の技術	実習で、はんだごてやクレーガンなどを使った安全作業を押さえるとともに、エネルギー変換する車両や機器が非常に便利な反面、扱い方を間違えると大きな事故につながることを押さえる。
D 情報の技術	目に見えないファイアウォールや暗号化の技術、インターネットを安全に使う情報セキュリティの技術に触れながら、情報モラル ^(注) の必要性を、道徳教育でなく「技術」として扱う。

注：「情報モラル」については、『<607> 技術分野の「授業づくり」で「情報活用能力」を扱うコツとは？』の資料にある、「情報社会に参画する態度」も参照して下さい。

参考資料：「内容A～Dの技術」に固有なコツと技術全般に関わる安全との関係

可能であれば、各編のまとめやファイナルの時間で、「内容A～Dの技術」の全般的な安全を串刺しにして、安全の概念について触れさせます。触れることで「安全」に対する概念を形成することができ、将来の生活場面でいろいろな技術と遭遇しても、自らが判断して安全と向き合うことができる態度が形成されると思います。

「A 材料と加工の技術」 の固有な安全	「B 生物育成の技術」 の固有な安全	「C エネルギー変換の 技術」の固有な安全	「D 情報の技術」 の固有な安全
技術全般を通しての「安全」に対する概念形成			